

私のすすめるこの1冊

相澤 雅文(特別支援教育臨床実践センター 教授)

『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』

ユヴァル・ノア・ハラリ (著)、柴田裕之 (訳)

『サピエンス全史』には、人類の7万年分の歴史が描かれている。7万年というと悠久の時を経てきたように感じる。ところが、ある高校の地学の授業を参観した時を思い出した。その授業では「地球の歴史を1年に換算したとすると、人類の出現は12月31日の11時37分頃」と説明していた。地球上で人類は結構新参者なのである。

人類と書いたが、「ヒト」は1属1種。現在ホモ・サピエンスのみが生存している。私たちは唯一生き延びた人類種なのである。ホモ・ネアンデルターレンシス（雪男：イエティかもといわれていたね）やホモ・エレクトゥス（ジャワ原人・北京原人）などの兄弟は絶滅した。

ホモ・サピエンスは、新しい思考と意思疎通方法を手に入れた「認知革命」や、1万年前ほどに起こった、動植物の生命を操作することによる「農業革命」、500年前に始まり現在も進行中の「科学革命」といった大きな変革を経てきた。「フィクション（虚構）を信じる力」により、集団で目的をひとつにして協力できる力がホモ・サピエンスに今日の栄華をもたらした。誕生から何万年も大型捕食動物に怯えながら、食物連鎖の中位にとどまっていた人類が頂点に上り詰めたのである。

しかし、光があれば影ができる。大きな変革で、地位を確保してきた人類であるが、数々の課題も突きつけられている。ライオンがサバンナの王者とし

て君臨するまで、数百万年の歳月を要したとされる。ライオンは狩りをし獲物を得るが、自ら生存している生態系を壊したりはしない。人類はごく短期間で頂点に上り詰めたため生態系に溶け込んでおらず、自分に合ったように環境を作り変えてきた。本書にはそうした警笛がちりばめられている。

ふと思う、数万年前の狩猟採集民と僕とを比較したらどうだろう。狩猟採集民は、自然の中から食べ物を見つけだすことも、解体して調理することも、服や道具を作ることも、雨風をよけ夜を過ごす場所を確保することも、すべてできていただろう。僕は車を運転したり、飛行機に乗って遠くに行ったり、電子レンジを使ったりできるが、動物の一個体として比較すると、狩猟採集民の方が生きるための知識や技術は格段に優れているではないか。

現在、グローバル化が進み、世界は一つの巨大なコミュニティとなり、密接につながっている。現代の人類がもつ世界観は、どこの国に行っても大きな変化はないであろう。多様性を失い、一元化してきているといっても良い。人類は「未知の飽くなき探求」を続けてきた。既知の領域の外に出て、未知の領域を調べ、新しい自然法則や新しい知識を得てきた。その知識は自分たちの力としてきたのである。さて、人類はこれからどこへ行くのだろうか。どんな未来を選ぶのだろうか。それは、我々の想像力次第なのだ、ということを考えさせてくれる本である。



第22回教科書展開催の報告

平成29年11月9日（木）から12月27日（金）まで、本学附属図書館企画展示室にて、第22回教科書展が開催されました。テーマは「環境教育副読本の歩み～森林、エネルギーの扱いを中心として～」と設定しました。

環境教育は、特にそのための教科があるわけではないため、教科書はありません。そのため、さまざまな内容に対応してさまざまな形で副読本が作成されてきました。そこで、今回の教科書展では、森林とエネルギーに関わる環境教育の副読本に絞って、その歩みが一覧できるようにしました。また、森林については、小学校の社会科と理科の教科書をそれぞれどのように扱ってきたかも一覧できるようにしました。このような企画は、おそらく本邦初のことと思います。

開催期間にはおよそ600名程度の方に観覧していただきました。本学の学生や教職員だけでなく、他の多くの教員、森林やエネルギー関係者、一般市民の方々にも観覧していただけたことは、とてもよかったですと思います。

記念行事として、「企業・NPOと学校が連携した森林ESDフォーラム in 京都」と「副読本を活用したエネルギー環境教育の授業実践」発表会の二つを開催しました。前者には55名、後者には38名の参加がありましたが、それぞれ日本各地からの参加があり、活発な意見交換が行われました。

今回の教科書展の波及効果として、森林関係の教科書と副読本の展示会を、日本各地を巡回して開催したいという要望も届いており、附属図書館に対応してもらっています。森林関係の副読本は、全て附属図書館が所蔵することになりましたので、必要ときはぜひ活用していただければと思います。

山下宏文（社会科学科 教授）

12月3日（日）「企業・NPOと学校が連携した森林ESDフォーラム in 京都」



（展示会場を見学）

12月16日（土）
「副読本を活用したエネルギー環境教育の授業実践」



森林関係の副読本
（教科書展にて）



京都教育大学
それはかなう夢講座

第10回の報告

1月17日(水)、
附属図書館1階のリフレッシュラウンジにて「それはかなう夢講座」が実施されました。今回は、家政科の深沢太香子先生による「男は暑がり？女は寒がり？—男女で違う温かさ/冷たさの感じ方—」をテーマに、お話しがありました。

多くの学生や教職員の参加があり、賑わっていました。



第10回の様子

※次回(第11回)は、5月の予定です。お楽しみに！！
【テーマ】「心は折れるのか～レジリエンスについて」
小谷裕実(発達障害学科 教授)

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

おにぎり2個&お茶付き！
先着30名

附属図書館臨時休館のお知らせ

図書館システムの更新に伴い下記の期間、附属図書館は休館します。ご不便をおかけして申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。
臨時休館日：2018年2月15日(木)～16日(金)

ラーニング commons の
IPC 端末の利用休止について

IPC のシステム更新に伴い、2018年1月～2月にかけてラーニング commons に設置している IPC 端末が利用できなくなります。ご不便をおかけしますがどうぞご了承ください。

企画展示室 (北館1階)

◆平成29年度 京都教育大学 附属学校・園
「第8回こども美術作品展」
【会期】1月31日(水)～
2月6日(火)
※最終日は15:00まで



ぜひ、
ご覧ください！

◆「たのしもう日本画展・
にしのまお作品展」

「日本画技法」宮川典子(非常勤講師)
(展示予定)日本画作品・木の飾台の作品・抽象画・葉のマチエール・人物クロッキーの作品など

【会期】2月8日(木)～2月23日(金)
※最終日は14:00まで

学内には四季折々の植物が育っています。風となり香りとなり、学生達にそっと「気付いてもらえましたか」と話しかけているのかもしれない。入学時から植物はそっと学生を見守っています。

たのしもう日本画展：構内を散策し、学内の植物をテーマに制作した作品などを展示しています。日本画の受講生は学年も年齢も様々で、初めて画材に触れた学生が大半です。描かれた作品のハーモニーを楽しみながら、ゆっくりご高覧頂けますよう宜しくお願いいたします。

にしのまお作品展：卒業することになったので、2年間でかいた絵をすべて展示してみます。よろしくおねがいします。

春季休業に伴う長期貸出について

学部生：1月27日(土)～3月30日(金)
院生・教職員：1月15日(月)～3月16日(金)
【返却期限日】4月16日(月)

(注意)

※一般利用者・卒業生の方は長期貸出できません。
※卒業予定者の返却期限は3月13日(火)です。
※長期貸出図書については、貸出更新(返却期限日の延長)はできません。一度返却してから、翌日以降貸出の手続きをとってください。

児童書コーナー

(南館1階)

幼児教育科主催



学生による絵本のよみきかせ

日時：2018年2月19日(月) 15:00～
絵本：『だるまさんが』など

今月の絵本カード(学生作)

『いいから いいから』
作：長谷川 義史
出版社：絵本館



※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。→

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品

「航空羅針儀二型改 (こうくうらしんぎにがたかい)」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひ教育資料館へ来てくださいね！



詳しくは・・・教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

京都教育大学紀要(大学発行の学術雑誌)に掲載された論文を、執筆した先生本人にご紹介いただくコーナーです。

論のくちび 理のむすび

附属図書館長 村上 登司文

「論のくちび 理のむすび」のいわれ

図書館ニュースではほぼ毎回、本学の『京都教育大学紀要』に掲載された論文を、執筆者の教員に紹介してもらっています。その紹介記事シリーズの名が「論のくちび 理のむすび」です。たまに、「論のむすび 理のくちび」と間違えることがあります。さて、その意味を知らないままに、原稿執筆の依頼をするのが申し訳ないので、漢文や古書に由来があるのか調べました。ネット上に答えはなく、命名した本人にお聞きすることになりました。

「論のくちび 理のむすび」のいわれを、コーナーを始めた元館長の寺田光世先生（在任期間H15.4～H17.3）からお聞きしました。「論のくちび」とは、研究論文の「はじめに」にあたり、緒言のことです。「理のむすび」とは、その論文が展開する論理の最後の結論に当たり、両者で一つの論文の流れを示します。寺田先生がこのシリーズを始めた意図は、本学の教員が何に興味を持ちどのように研究しているかを、教員自身の言葉で学生達に紹介することでした。この「論のくちび 理のむすび」の名は、音の響きが良い語呂合わせから、寺田先生ご自身が作られたオリジナルでした。

このシリーズは2003年11月号から始まり、現在まで約170編もの論文が紹介されています。学生にとって大学紀要論文は題名もいかめしいので敬遠されがちですが、先生方の研究に学生が親しみを少しでも持てるように、簡潔に、時には熱く研究成果を語っていただくコーナーとして、今後ご利用ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2018年2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

2/5-2/9 後期末試験

2/15-16 システム更新のため

2/25-2/26 前期入試

2018年3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

3/7 館内整理日

3/12 後期入試

3/23 卒業式

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.209(2018年2月号)

発行日:平成30年2月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp

